

# 兵庫県産金龜子虫科雜記\*

高橋 寿 郎

筆者は数回に汎り本誌上に兵庫県産金龜子虫相調査資料を発表して来たが未発表の諸亜科に及ぶ前に今迄発表して来たもの、関係分の内其の後の調査研究の結果種々訂正、追加の点が出来て来たので上記表題の下に此処に其れ等を発表したい。多数の資料を提供下さった柏原高枝、山本義丸氏、兵庫農業短期大学、石田裕氏、京大、和田義人氏及び吉阪道雄氏の諸氏に厚く御礼申し上げる。

## 1. *Onthophagus fodiens* WATERHOUSE (フトカドエンマコガネ) に就いて

本種は *O. ater* WATERHOUSE (クロマルエンマコガネ) と良く似た種であるが前者の翅鞘には細く浅い縦溝を具え溝中に横の凹陷を具え、間室には小点刻を散布し、斜の著しい縦皺を装ひ短毛を有するのに反し、本種は間室には小点刻を散布して居るのみで斜の縦皺は全然無いので翅鞘は艶やゝかに見える。亦前胸背にある三角形の隆起の後方両側はやゝ外縁後半に平行な隆起線と連ならずやゝ彎曲し隆起全体が前者より著しい。前者と混じて産するが個体数は少い様であるが産する。次の地点で採集して居る。川西市一の鳥居 (1♂、22—Ⅵ—1952)、神戸市山の街 (2♂♂、30—Ⅳ—1950、1♂、17—Ⅴ—1953、1♂、16—Ⅴ—1954)。

## 2. *Aphodius* 属 4 種の記録

I. *A. atratus* WATERHOUSE (クロツヤマグソコガネ)、本種は原記載 (Trans. Ent. Soc. Londn, p. 91, 1875) に Hiogo は産地として掲げてあるが其の後採集された事を知らない。原記載よりすると細長き楕円形、幾分扁平、黒色艶あり。頭部には明らかに点刻を密布し、頭楯には円形の点刻を有する翅鞘に条線刻の縦線を有す。条線刻間室は明らかに点刻を有して居る縦条線の一つ一つは点刻状であるが平滑に見える。

II. *A. lewisi* WATERHOUSE (リュニスマグソコガネ)、本種は中根氏に依り図説されて居る (昆虫界、X 114, p. 391, pl. 2, f. 2, 1943)。氷の山で中根氏に依り記録されて居る。

III. *A. nigriotesellatus* MOTSCHULSKY (クロモンマグソコガネ)、LEWIS が *A. variabilis* WATERHOUSE として記録されたものであるが従来記録されたものであるが従来記録されて居た *A. variabilis* は *A. obsoleguttatus* の事で *A. variabilis* = *A. nigriotesellatus* は全然別種である、其れ故 *A. nigriotesellatus* は

KOBE に産する事になる。

## III. *A. rugosostriatus* WATERHOUSE (スシマグネコガネ)

本種は原記載にも神戸は産地として掲げてある (Trans. Ent. Soc. London, p. 92, 1875, Japan)。筆者自身は神戸で採集した事は無いが石田氏に依り加古川で採集された標本を貰ひ受けて居る、石田氏の談に依れば加古川附近には普通に産するとの事である。体黒褐色艶がある。

頭部、頭楯は細く、前者には疎に点刻される。

前縁は僅に彎入する隆起を有す。前胸背の側縁・前縁角は淡褐色。翅鞘は前方後方はほぼ同幅。小楯板は基方界平行で先端は尖る。翅鞘頭著に条線刻され、翅鞘先端近く側方は淡色である加古川、3 Exs., Ⅴ—1955、2 Exs., 15—Ⅶ—1953、2 Exs., 5—Ⅷ—1954)。

## 3. *Aphodius brachysomus* SOLSKY の記載

前回 *A. impunctatus* WATERHOUSE として同定したものが実は *A. brachysomus* SOLSKY の事である事は記して置いたが本種は WATERHOUSE 氏に依り *A. major* として Hiogo は記録されて居る (Trans. Ent. Soc. London p. 80, 1875)。記載としては八幡氏が発表されて居るので (虫の世界、Ⅳ、9/10 p. 13, 1941) 此処には簡単に記載して置く。

体幅広く背面強く腕状に彎曲す。黒色やゝ艶がある。頭部前縁弧状を描き中央やゝ彎入する。頭楯と前頭との境界部に3箇の瘤状隆起を有す。前胸背は中央側縁に於て広がり、前縁後縁に向い狭隘す。後縁角は稍々凹入す。

両側及基部縁取らる。前縁は黄褐色の縁を有す。後縁は基部に於いてその幅略々並行なるも、先端迄にて急に狭まる。翅鞘には大型の点刻列よりなる九条の点刻線あり、間室は稍々隆起し、微細なる点刻を先く装ふ。脚部黒色、各跗節は赤褐色を呈す。ただ1♂を採集して居るだけなので (淡路岩屋、1♂、30—Ⅳ—1943) 産出状況はわからない。

## 4. *Anomala difficilis* WATERHOUSE の産地

本種は *A. lucens* (ツヤコガネ) に良く似たた種であり *A. lenzi* (レンチコガネ) と称して居られた種の事である。併乍ら一見して割合簡単に区別出来る、即ち体細長く頭部大に突出する限を有す。

上面黄褐色にして強き緑色の光沢あり。翅鞘又黄褐

\* 兵庫県産金龜子虫相資料 1.

縦線浅い。頭部は体に比し大きく、頭楯の前縁上反し、胸背板中央に短き縦溝状の凹線あり、翅鞘は黄褐色にして稍緑色の光沢を呈す。線条は浅くして稍強き点刻を列状に存す。尾節板は精密なる環状の細点刻を有し上向せる長毛に具ふ。県下に於ける記録はほとんど無かつた様に思われるが六甲山に於いてはやゝ普通に産し(1♂1-Ⅶ-1955、吉阪氏、13♂♂、5♀♀10-Ⅶ-1955、筆者)、其の他の地では山本氏に依り朝来郡段ヶ峯(1♂、7-Ⅷ-1953)、美方郡氷の山(1♀、22-Ⅶ-1953)で採集されて居る。尤も兵庫はLEWIS氏に依り1895年に記録されて居る。

5. *Anomala octiescostata* BURMEISTER (ヒラタアオコガネ)の産地

本種の産出状況に就いては今迄知らなかつたのであるが山本義丸氏の御教示に依り六甲山に於いてフジとかヤナギとか種々の樹種に五月群棲して居る事を知り得た。御教示並びに標本の御恵与に對して山本氏に厚く御礼申し上げる。原記載(Burm; Handb. IV, I, p. 243, 1844)に“A common species; it appears with the first warm days spring,”と書かれて居る(六甲山、1♂、2♀♀、15-Ⅶ-1954、山本氏、34♂♂、37♀♀、8-Ⅶ-1955、筆者)。

6. *Anomala diversa* WATERHOUSE (ウスタヤコガネ)と*A. pubicollis* WATERHOUSE (ナラノチャイロコガネ)

*A. pubicollis* WATERHOUSE (ナラノチャイロコガネ)は古く WATERHOUSE 氏に依り兵庫は記録されて居り、其の後 LEWIS 氏に依つても記録されて居るのであるが筆者本種の県下の産地は知らない。前報文で箕谷産としたのは *A. diversa* WATERHOUSE (ウスタヤコガネ)の♀であるので此処に訂正して置く。*A. diversa* は極く普通に産する種であり♂♀の形態が異つて居り、亦色彩の変化も多い。♂に於いては体形細長く、全体黒色を呈し普通翅鞘は黄褐黄色、会合線及び周縁の上反部極く細く黒色を呈する。翅鞘はさらに側縁及び先端部より次第に黒色部多くなり遂に黒化

に至る、艶あり滑らかである。神戸附近では此の黒化型も割合得られる。一方♀の方は♂と比してやゝ円味を帯び一般に淡色のものが多い。腹部は殆んど黄色、頭楯は黄色。

頭部は両側黒色にて中央は三角形に黄色を呈する、前背板は黄色にて中央に2大黒紋、側縁に各1個の小黒紋と計4個の黒紋を有するが稀に両側縁のものは消失する。小楯板及び翅鞘は全黄色を呈する次第に腹部黒化、前背板の4黒紋は次第に大きくなり黒化に近づく頭楯は前頭部との会線近くに2黒紋を表わし頭部の三角形の黄色部に次第に小さくなるが翅鞘は依然黄色、稀に翅鞘黒化のものが出現すると云うが此の様なものは現在の所筆者は得て居らぬ。

7. *Miridiva castanea* (WATERHOUSE) (クリイロコガネ)について

前に *Lachnosterna castanea* (WATERHOUSE) として記録した種は村山博士に依ると(満鮮金龜子図説、第一巻、1954)、触角9節なる事に依り *Miridiva* 属に移されたので上記の如き学名になるがやはり本種は県下に産する事は疑わしい。

8. *Cetoniinae* 亜科2種の産地

I. *Rhomborrhina polita* WATERHOUSE (クロカナブン)、

神戸附近では稀であるが、氷上郡産次の標本を山本氏より御恵与頂いた同地では割合産する様である。氷上郡柏原(1♀、6-Ⅷ-1955、1♀、25-Ⅷ-1955)、黒井町(1♂、5-Ⅷ-1955、1♀、10-Ⅷ-1955)、市島(1♀、3-Ⅷ-1955)、妙高山(1♀、5-Ⅷ-1955)。

II. *Protaetia cataphracta* ARROW (ムラサキツヤハナムグリ)、

本種の産地は前の報文に於いて六甲のみを産地として掲げて置いたが県下美方郡湯村に於いて飛翔中の1♀を採集したので(27-Ⅶ-1952)此処に産地として報告する。(Feb.-1956)